

正しい知識に基づき、冷静に行動すること
震災に苦しむ方がたの心を正しく見つめ、受け止めること
それが今、私たちに求められています

正見

SHOKEN



FUKUSHIMA

原子力発電所の事故による風評被害が拡大しています。

福島県から避難した子どもたちが「放射線がウツル」などといじめられたほか、避難した方に対する宿泊拒否、福島県ナンバーの車への給油拒否、タクシーの乗車拒否などの被害が相次いで報道されています。

しかし、被ばくに関する科学的、客観的な事実をしっかり理解し、冷静に受け止めるならば、このようないじめや差別はいわれのない誤りと誰しもが気付くはずで
す。また、差別や偏見を受ける方がたの苦しみを正しく感じ、受け止めたとき、私
たちの行動は自ずと変化するものでしょう。

私たちの温かい「ことば」や「行い」が被災された方がたを支えます

お釈迦様の教えに八正道があります。仏教者が生きて行くための8つの大切な教え
の事です。これら8つは個別なものではなく、相互に密接に関係しあいながら、統
合され正しい生き方につながります。なかでも、正しい見解や正しい信仰を持つた
めの「正見」は仏教者として思考や行動の基準となるものです。